

実務経験のある教員による授業科目の一覧表

看護学部 看護学科

| 領域 | 授業科目名 | 単位数 | 実務経験 |
|--------|-------------|-----------|------|
| 専門基礎分野 | リハビリテーション概論 | 1 | 看護師 |
| 専門分野 | 看護学概論 | 2 | 助産師 |
| 専門分野 | 看護倫理 | 1 | 助産師 |
| 専門分野 | 看護実践論 | 1 | 助産師 |
| 専門分野 | 看護研究 | 1 | 助産師 |
| 専門分野 | 地域看護学概論 | 2 | 保健師 |
| 専門分野 | 在宅看護学概論 | 1 | 保健師 |
| 専門分野 | 在宅看護学援助論 | 1 | 保健師 |
| 専門分野 | 在宅看護学演習 | 1 | 保健師 |
| 専門分野 | 在宅看護学実習 | 2 | 保健師 |
| 専門分野 | 成人看護学概論 | 1 | 看護師 |
| 専門分野 | 老年看護学概論 | 1 | 看護師 |
| 専門分野 | 認知症看護論 | 1 | 看護師 |
| 専門分野 | 小児看護学概論 | 2 | 看護師 |
| | 単位数合計 | 18 | |

実務経験のある教員による授業科目の授業計画書（シラバス）

| 授業科目名 | 授業形態 | 単位数 (時間数) | 配当年次 | 担当教員 |
|-------------|------|---------------|------|------|
| リハビリテーション概論 | 講義 | 1単位 (15時間) | 1年後期 | 神島滋子 |

授業概要

日本の医療の高度化により死亡率は低下した反面、障害をもつ人は増加した。また、高齢化によっても障害をもつ人は増加している。障害をもつ人々の生活の質を高めるリハビリテーションの概念は、当事者およびその家族にとって重要である。リハビリテーションにおける看護は対象である人間を、健康障害や障害を持ちながらも生活者としてとらえ、その人らしく生きることを支援し生活の質（QOL）を高めていけるように援助することにある。リハビリテーションの必要な人を支援するための基礎的知識として、リハビリテーションの定義や歴史、倫理、種類およびリハビリテーションに関連する概念や、看護におけるリハビリテーションについて学修する。

到達目標

1. リハビリテーションとは何か説明できる
2. リハビリテーションの種類と特徴を説明できる
3. 看護におけるリハビリテーションについて説明できる
4. リハビリテーションの対象を生活者としてとらえる ICF について説明できる

事前学修・事後学修

事前学修：提示する教科書を読んでおく（各単元に関連する項目は提示する）

各単元で学びたいことを明らかにし、自ら学修目標を立てて望む

事後学修：各単元において事前学修で立てた目標を評価し、疑問を解決する

| | | | |
|----|---------|-------|---------|
| 対応 | ○ (DP1) | (DP2) | ◎ (DP3) |
| DP | (DP4) | (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程 | 単元 | 内 容 | 担当教員 |
|----|--------|-----------------------|--|------|
| 1 | 月 日 | リハビリテーションとは | ガイダンス リハビリテーションの歴史・定義、障害とは | 神島滋子 |
| 2 | 月 日 | リハビリテーションにおける倫理、法律、施策 | リハビリテーションの領域、障がい者の権利、法律とサービス | 神島滋子 |
| 3 | 月 日 | 国際生活機能分類（ICF）とは | ICIDH と ICF、ICF で人間の生活を考える | 神島滋子 |
| 4 | 月 日 | リハビリテーション看護 | リハビリテーション看護とは、リハビリテーション看護の対象 | 神島滋子 |
| 5 | 月 日 | リハビリテーション看護の方法 | 片麻痺体験を通しアセスメント、援助方法（セルフケアの援助を中心に）について考える | 神島滋子 |
| 6 | 月 日 | 地域におけるリハビリテーション | 地域におけるリハビリテーション | 神島滋子 |
| 7 | 月 日 | 健康障害とリハビリテーション | 健康障害とリハビリテーション | 神島滋子 |
| 8 | 月 日 | 専門職とリハビリテーション | 理学療法・作業療法・言語療法と看護 | 神島滋子 |

| | |
|----------|--|
| 評価 | 筆記試験（100%） |
| 教科書 | ナーシング・グラフィカ リハビリテーション看護（成人看護学⑤） メディカ出版 |
| 参考図書等 | 国際生活機能分類 中央法規 |
| 留意事項 | |
| オフィスアワー等 | 水曜日（16時～18時）・木曜日（17時～18時）研究室 |
| 必修・選択 | 必修 |
| 実務経験 | 看護師として医療機関等に10年勤務 |

| 授 業 科 目 名 | 授業形態 | 単位数 (時間数) | 配当年次 | 担 当 教 員 |
|-----------|------|---------------|------|---------|
| 看護学概論 | 講義 | 2単位 (30時間) | 1年前期 | 辻慶子 |

授 業 概 要

看護学概論は、「看護とは何か」という看護の本質を多角的に追究し、看護学全体の基本的な知識を学修する。具体的には、看護の変遷、看護の基本的概念である「人間」、「健康」、「環境」、「看護」を理解し、科学的根拠に基づいた看護実践を支える知識体系、対象の健康を保持・増進、あるいは発達段階に応じた生活（QOL）を支えるケアの実践ができるように学修する。また、看護倫理や医療安全についても考え看護専門職としての役割・機能について学ぶ。

到 達 目 標

1. 看護の基本概念を説明できる
2. 看護歴史の変遷を説明できる
3. 現代社会における看護活動の場の特性と看護の役割、機能を説明できる
4. 看護実践に関連する看護倫理や医療安全を説明できる
5. 専門職としての看護の将来について、自分の考えを述べるができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

| | | | |
|----------|---------|-------|---------|
| 対応 DP | ○ (DP1) | (DP2) | ◎ (DP3) |
| | (DP4) | (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程 | 単 元 | 内 容 | 担当教員 |
|----|--------|-----------------|--|------|
| 1 | 月 日 | ガイダンス 看護とは | ①看護を学ぶにあたって ②看護の原点 ③看護の定義 | 辻慶子 |
| 2 | 月 日 | 看護の歴史の変遷 | ① 看護を歴史・教育・制度 ②看護と社会のできごととの関連 | 辻慶子 |
| 3 | 月 日 | ナイチンゲール「看護覚え書」 | ①ナイチンゲールの経歴・業績 ②「看護の覚え書」の特徴 ③ナイチンゲールの病気の定義、健康の考え方 | 辻慶子 |
| 4 | 月 日 | 人間理解 | ①生活する人々と看護の関係 ②発達・変化するものとしての人間 ③家族の構造と機能 ④地域と文化 | 辻慶子 |
| 5 | 月 日 | 環境理解 | ①人間と環境の関係 ②環境の変化と対処規制 ③健康に関与するストレス ④ストレスの対処行動 | 辻慶子 |
| 6 | 月 日 | ライフサイクルと健康 | ①人の成長と発達の特徴 ②フロイト・エリクソン・ハヴィガートスの発達理論 ③小児期から老年期に至るまでの健康上の特徴 | 辻慶子 |
| 7 | 月 日 | 看護実践と看護倫理 | ①看護技術の特性 ②看護における倫理の重要性 ③倫理の原則 ④医療・看護における患者の権利 | 辻慶子 |
| 8 | 月 日 | 看護と保健・医療・福祉との連携 | ①保健・医療・福祉の基盤となる法律 ②保健・医療・福祉で提供されているサービスの目的 ③保健・医療・福祉における看護の特徴と看護職の役割 | 辻慶子 |
| 9 | 月 日 | 看護と法律・看護制度・看護行政 | ①看護にとって政策の重要性 ②看護を取りまく主な法律 ③わが国の看護職の資格 ④看護現場における業務と法律の関連 | 辻慶子 |
| 10 | 月 日 | 医療安全 | ①医療安全の概念 ②医療事故の概念 ③看護業務との関連 | 辻慶子 |
| 11 | 月 日 | 看護の専門性 | ①専門職の定義や基準 ②専門職としての看護の歴史の変遷 ③専門看護師、認定看護師、認定看護管理者の現状 ④専門職としての責務 | 辻慶子 |
| 12 | 月 日 | 看護の展開 | ①クリティカルシンキングとは ②看護実践における問題解決過程とクリティカルシンキングの意義 ③看護過程を展開するうえで留意すべき原則 | 辻慶子 |
| 13 | 月 日 | 看護の国際化 | ①国際的な健康問題 ②国際協力 ③文化を超えた看護の必要性 | 辻慶子 |
| 14 | 月 日 | 産業看護 | ①産業看護の定義 ②産業看護の目的・特徴 ③産業保健 | 辻慶子 |
| 15 | 月 日 | 看護の展望と課題 | ① これからの看護に求められる役割 ②専門職としての組織および看護実践の基準 | 辻慶子 |

| | |
|-------|---|
| 評 価 | 筆記試験（70%）、課題レポート（20%）、グループ発表（10%）を総合して60点以上を合格とする |
| 教科書 | 1. 高橋照子編集 看護学原論（南山堂） 2. フロレンス・ナイチンゲール著 小玉香津子・尾田葉子訳看護覚え書—本当の看護とそうでない看護—（日本看護協会出版会） 3. ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯楨ます・小玉香津子訳 看護の基本となるもの（日本看護協会出版会） |
| 参考図書等 | |

| | |
|----------|------------------------------|
| 留意事項 | |
| オフィスアワー等 | 月曜日（17時～18時）・水曜日（16時～18時）研究室 |
| 必修・選択 | 必修 |
| 実務経験 | 助産婦（師）として医療機関等に9年勤務 |

| 授業科目名 | 授業形態 | 単位数 (時間数) | 配当年次 | 担当教員 |
|-------|------|---------------|------|------|
| 看護倫理 | 講義 | 1単位 (15時間) | 2年前期 | 辻慶子 |

| 授業概要 |
|---|
| 看護者の倫理綱領や看護の倫理的実践の基準・倫理的概念について学び、看護者としてあるべき姿を考える。基幹分野で学んだ倫理学と関連させながら、倫理的感受性や道徳的推論を高め、看護の場において生じる倫理的問題についてインフォームドコンセントや患者の権利を学び、看護職の倫理的責任を考えた意思決定・看護実践ができる基礎的能力を身につけるよう学修する。さらに倫理的視点を明確にするためにグループワークでディスカッションを深める。 |

| 到達目標 |
|--|
| 1. 看護倫理の定義や歴史、看護倫理の原則、アドボカシーやケアリングなど看護倫理における重要な概念を説明できる 2. 専門職としての社会的・倫理的責任について考え、「看護者の倫理綱領」を基に倫理的行動基準について説明できる 3. 倫理的な問題にどのようにアプローチしていくか、倫理的意思決定のための具体的方法について事例を用い検討できる |

| 事前学修・事後学修 |
|--|
| 事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする |

| | | | |
|----|---------|-------|---------|
| 対応 | ○ (DP1) | (DP2) | ◎ (DP3) |
| DP | (DP4) | (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程 | 単元 | 内容 | 担当教員 |
|----|--------|------------------|--|------|
| 1 | 月 日 | 看護倫理の基礎・歴史的推移 | ①看護倫理の重要な概念 ②看護倫理を学ぶ意義を ③看護の倫理原則 ④看護倫理の歴史的経緯 | 辻慶子 |
| 2 | 月 日 | 薬害問題の被害者の声を聞く | ①薬害の原因, 実態, 歴史, 偏見などの人権問題 ②医療専門職としての責任 | 辻慶子 |
| 3 | 月 日 | 看護実践上の倫理的概念 1 | ①インフォームドコンセントの概念と定義 ②インフォームドコンセントに関わる看護師の役割 ③看護倫理におけるケアリングの関係性 | 辻慶子 |
| 4 | 月 日 | 看護実践上の倫理的概念 2 | ①医療における患者の権利の意義 ②守秘義務の法的側面と倫理的側面 ③守秘義務とプライバシーの違い ④看護職の倫理的責任 | 辻慶子 |
| 5 | 月 日 | 看護実践上の倫理的概念 3 | ①アドボカシーの概念と必要性 ②看護実践におけるアドボカシー行動の重要性 ③チーム医療の必要性 ④看護師の倫理的行動規範 | 辻慶子 |
| 6 | 月 日 | 看護者の倫理綱領と倫理的行動基準 | ①専門職の倫理綱領の意義と内容 ②実践現場における具体的な場面と「看護師の倫理綱領」との関連 | 辻慶子 |
| 7 | 月 日 | 事例分析 | ①看護倫理の様々な方法論の特徴 ②自己の看護実践上の倫理的調整 | 辻慶子 |
| 8 | 月 日 | 倫理的問題へのアプローチ | ①看護実践における倫理的問題 ②倫理的問題を議論する上での留意点 ③倫理的問題に対するアプローチ方法 | 辻慶子 |

| | |
|----------|---|
| 評価 | 筆記試験 (70%)、課題レポート (30%) を総合して 60 点以上を合格とする。 |
| 教科書 | 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 |
| 参考図書等 | |
| 留意事項 | |
| オフィスアワー等 | 月曜日 (17 時～18 時) ・水曜日 (16 時～18 時) 研究室 |
| 必修・選択 | 必修 |
| 実務経験 | 助産婦 (師) として医療機関等に 9 年勤務 |

| 授 業 科 目 名 | 授業形態 | 単位数 (時間数) | 配当年次 | 担 当 教 員 |
|-----------|------|-----------------|-------|---------|
| 看護実践論 | 講義 | 1 単位 (15 時間) | 1 年後期 | 辻慶子 |

授 業 概 要

看護を実践するためにはやみくもに行動するのではなく、科学的根拠が必要になる。看護の対象の生活（QOL）を支え、よりよい健康を保持するために必要な理論を学ぶ。看護理論は多くの先人の研究のもとに構築された看護に不可欠なものである。本科目ではヴァージニア・ヘンダーソン、ドロセア E. オレム等の看護理論について学び、科学的に看護を実践する礎とする。看護実践の際は知識・技術とともに看護者としての態度も重要である。ここでは看護者として求められる「人間性」についても理解する。

- 到 達 目 標**
1. 看護実践の基盤となる看護理論の概念、特徴を説明できる
 2. 看護者の人間性を向上させる必要性を説明できる
 3. 看護者の人間性を向上させるための方法が説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

| | | | |
|----|---------|-------|---------|
| 対応 | ○ (DP1) | (DP2) | ◎ (DP3) |
| DP | (DP4) | (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程 | 単 元 | 内 容 | 担当教員 |
|----|--------|----------------|------------------------------|------|
| 1 | 月 日 | ガイダンス 看護実践論 | ①科目のガイダンス ②看護実践とは | 辻慶子 |
| 2 | 月 日 | 看護に求められる人間性 | ① 人間性とは ②その人らしさ | 辻慶子 |
| 3 | 月 日 | 治る力を引き出す | ①自然治癒力 ②看護の可能性 | 辻慶子 |
| 4 | 月 日 | 看護理論① | ①ヴァージニア・ヘンダーソン ②ドロセア E. オレム | 辻慶子 |
| 5 | 月 日 | 看護理論② | ①ヒルデガード E. ペプロウ ②ジョイス・トラベルビー | 辻慶子 |
| 6 | 月 日 | 看護理論③ | ①シスター・カリスト・ロイ ②キング | 辻慶子 |
| 7 | 月 日 | 手によるケアの重要性① | ①触れる・癒す ②ケアリング | 辻慶子 |
| 8 | 月 日 | 手によるケアの重要性② | ①手を用いたケアの実際 | 辻慶子 |

| | |
|----------|---|
| 評 価 | 筆記試験（70%）、課題レポート（30%）を総合して 60 点以上を合格とする |
| 教科書 | 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 |
| 参考図書等 | |
| 留意事項 | |
| オフィスアワー等 | 月曜日（17 時～18 時）・水曜日（16 時～18 時）研究室 |
| 必修・選択 | 必修 |
| 実務経験 | 助産婦（師）として医療機関等に 9 年勤務 |

| 授業科目名 | 授業形態 | 単位数 (時間数) | 配当年次 | 担当教員 |
|-------|------|---------------|------|------|
| 看護研究 | 演習 | 1単位 (30時間) | 2年後期 | 辻慶子 |

授 業 概 要

看護の発展は研究によって支えられている。高度化・複雑化する医療の中で看護の本質を探究し、科学することで人々の生活(QOL)を支え、健康の質に寄与できるよう学修する。看護研究を行う意義、方法、倫理的配慮など看護研究の基礎的知識を学び研究に対する理解を深める。関心のあるテーマに関する文献のクリティークを行い、研究デザインや理論・概念枠組み・データ収集・測定用具・分析方法・分析結果の解釈について学修する。

- 到 達 目 標
1. 看護研究の概要を説明できる
 2. 看護研究の意義を説明できる
 3. 研究計画書作成方法を説明できる
 4. 質的研究、量的研究、実験研究、文献研究について説明できる
 5. 文献検索ができ、クリティークの方法を説明できる
 6. 看護研究における倫理的配慮について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

| | | | |
|----|-------|-------|---------|
| 対応 | (DP1) | (DP2) | ○ (DP3) |
| DP | (DP4) | (DP5) | ◎ (DP6) |

| 回数 | 日程 | 単 元 | 内 容 | 担当教員 |
|----|--------|--------------------|--|------|
| 1 | 月 日 | 授業ガイダンス 看護研究の概要 | ①看護研究の意義と歴史の変遷 ②基本的なステップ | 辻慶子 |
| 2 | 月 日 | 研究プロセス | ①研究のプロセス ②文献検索 ③研究計画書の作成方法 | 辻慶子 |
| 3 | 月 日 | 研究デザイン・クリティークの方法 | ①クリティークの方法 ②オンラインデータベースを用いた検索 | 辻慶子 |
| 4 | 月 日 | 文献検索 | ①研究疑問と研究デザインとの関連 | 辻慶子 |
| 5 | 月 日 | 質的研究 | ①質的研究デザインと特徴 ②質的研究の種類 ③質的研究のデータ収集 ④質的研究の分析 ⑤実例 | 辻慶子 |
| 6 | 月 日 | 量的研究 | ①量的研究の概観 ②対象者の選定 ③データ収集方法 ④データ方法(データの集計、記述統計、推計統計) ⑤実例 | 辻慶子 |
| 7 | 月 日 | クリティーク① | ①文献を読む ②グループ内でディスカッションを行う ③発表しあい共有する | 辻慶子 |
| 8 | 月 日 | 実験研究 | ①実験法の基本構造 ②実験法の利点と弱点 ③実験法の具体的手順 ④実例 | 辻慶子 |
| 9 | 月 日 | 文献研究 | ①文献研究の種類 ②文献研究を看護分野で行うことの意義 ③実例 | 辻慶子 |
| 10 | 月 日 | クリティーク② | ①文献を読む ②グループ内でディスカッションを行う ③発表しあい共有する | 辻慶子 |
| 11 | 月 日 | クリティーク③ | ①文献を読む ②グループ内でディスカッションを行う ③発表しあい共有する | 辻慶子 |
| 12 | 月 日 | 研究における統計処理 | ①変数の明確化 ②変数の種類 ③変数の種類による分析方法違いと示し方 ④データの信頼性と妥当 | 辻慶子 |
| 13 | 月 日 | クリティーク④ | ①グループ内でのクリティークのまとめ | 辻慶子 |
| 14 | 月 日 | 看護研究上の倫理 | ①看護研究における倫理 | 辻慶子 |
| 15 | 月 日 | まとめ | ①クリティークのまとめ ②全体のまとめ | 辻慶子 |

| | |
|----------|---|
| 評価 | クリティークのための個人レポート (20%)、クリティークグループレポート (30%)、課題レポート (50%) を総合して 60 点以上を合格とする |
| 教科書 | 黒田裕子：看護研究 Step by Step、医学書院 |
| 参考図書等 | |
| 留意事項 | |
| オフィスアワー等 | 水曜日 (16 時～18 時)・木曜日 (17 時～18 時) 研究室 |
| 必修・選択 | 必修 |
| 実務経験 | 助産婦 (師) として医療機関等に 9 年勤務 |

| 授 業 科 目 名 | 授業形態 | 単位数 (時間数) | 配当年次 | 担 当 教 員 |
|-----------|------|---------------|------|---------|
| 地域看護学概論 | 講義 | 2単位 (30時間) | 2年前期 | 池田敏子 |

授 業 概 要

地域看護は、地域で生活しているさまざまな健康レベルの個人、家族、集団、コミュニティを対象に展開され、社会情勢や疾病構造の変化など社会のニーズに応じた形で活動の場が広がっている。昨今の少子高齢化の中、地域包括ケアシステムの構築が示され、看護職はその構築へ向け大きな役割を果たすことが求められる。この科目では、地域での生活（QOL）を支えるケア提供へ向けた基盤となる知識の修得を目指す。具体的には、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう保健医療福祉の多くの専門職と連携・協働を行い、地域での生活を支えるケア体制を整えていくことの必要性と求められる技術、活動の場に応じた看護職の機能と役割について学修する。

到 達 目 標

1. 地域看護の概念、定義、対象と活動の場、活動を支える概念について説明できる
2. 地域看護の歴史からみた地域看護活動の特性について説明できる
3. 人々の健康と社会環境との関連について説明できる
4. ヘルスケアシステムの成り立ちと地域保健医療福祉行政について説明できる
5. 地域看護活動としての行政、産業、学校、在宅看護活動の特性について説明できる
6. 個と集団の支援、地域診断、地域ケアシステムづくりについて、地域看護技術について説明できる
7. 福岡市における地域包括ケアシステムについて、地域包括支援センターの活動の実際について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：1 該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
2 主体的に自己研鑽する

事後学修：1 当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする
2 当該テーマに沿った関連文献を読み、さらに内容を深める

| | | | |
|----|---------|-------|-------|
| 対応 | ○ (DP1) | (DP2) | (DP3) |
| DP | ◎ (DP4) | (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程 | 単 元 | 内 容 | 担当教員 |
|----|--------|-----------------------------|--|------|
| 1 | 月 日 | 地域看護学とは | 授業ガイダンス 地域看護学の概念、対象と活動の場、ヘルスプロモーションの考え方 | 池田敏子 |
| 2 | 月 日 | 地域看護学の歴史 | 地域看護のはじまりとその変遷 | 池田敏子 |
| 3 | 月 日 | 社会環境の変化と健康影響 | 健康に影響する生活環境と社会的要因、健康格差 | 池田敏子 |
| 4 | 月 日 | ヘルスケアシステム | ヘルスケアシステムのなりたちと地域保健医療福祉行政 | 池田敏子 |
| 5 | 月 日 | 地域看護活動① -行政看護- | 行政機関における地域看護活動 | 池田敏子 |
| 6 | 月 日 | 地域看護活動② -産業看護- | 職場における地域看護活動 | 池田敏子 |
| 7 | 月 日 | 地域看護活動③ -学校看護- | 学校における地域看護活動 | 池田敏子 |
| 8 | 月 日 | 地域看護活動④ -在宅看護- | 病院・在宅における地域看護活動 | 池田敏子 |
| 9 | 月 日 | 地域看護技術① -相談技術- | 健康相談の目的と対象、展開方法、相談場面で用いられるコミュニケーション技法 | 池田敏子 |
| 10 | 月 日 | 地域看護技術② -教育技術- | 健康教育の目的と対象、展開方法、教育場面で用いられるプレゼンテーション技法 | 池田敏子 |
| 11 | 月 日 | 地域看護技術③ -地域診断- | 地域診断の意義と目的、地域診断過程、地域アセスメントで用いられる理論モデル | 池田敏子 |
| 12 | 月 日 | 地域看護技術④ -地域ケアシステムづくり- | 地域を取り巻く現状と地域ケアシステムの必要性と看護職の役割 | 池田敏子 |
| 13 | 月 日 | 地域ケアシステムづくり の実際 -行政の活動- | 行政における地域包括ケアシステムについて | 池田敏子 |
| 14 | 月 日 | 地域ケアシステムづくり の実際-地域包括支援セン | 地域包括支援センターの活動と地域ケアのシステムづくりについて | 池田敏子 |

| 回数 | 日程 | 単 元 | 内 容 | 担当教員 |
|----|--------|------------|-------------|------|
| | | 夕の活動- | | |
| 15 | 月 日 | 地域看護学概論まとめ | 講義の振り返りとまとめ | 池田敏子 |

| | |
|----------|---|
| 評 価 | 筆記試験（80%）、課題レポート（20%） |
| 教科書 | 編著 豊島泰子，看護師のための地域看護学，PILAR PRESS， 2016 |
| 参考図書等 | 1. Essentials 地域看護学 第2班 医歯薬出版株式会社，編集代表 木下由美子 2016 2. 国民衛生の動向 2021/2022 一般社団法人厚生労働統計協会，2021 |
| 留意事項 | |
| オフィスアワー等 | 月曜日（16時～18時）木曜日（17時～18時）研究室 |
| 必修・選択 | 必修 |
| 実務経験 | 保健婦（師）として医療機関等に6年勤務 |

| 授業科目名 | 授業形態 | 単位数 (時間数) | 配当年次 | 担当教員 |
|---------|------|---------------|------|-------|
| 在宅看護学概論 | 講義 | 1単位 (15時間) | 2年前期 | 馬場みちえ |

授 業 概 要

地域看護における在宅ケアの位置づけを理解し、在宅看護の特徴や在宅看護の対象者の支援について学ぶ。在宅看護の対象は小児から老年まで幅広く、その目的も多岐にわたっている。また社会資源の活用など制度への理解も必要となる。在宅での看護の場合は対象者を理解するとともに、在宅療養を支える家族への援助や意思決定を支えることも必要になる。対象の状態に応じた在宅看護の提供の実際や在宅への移行支援、さらに在宅看護を取り巻く現状と問題を学修する。

到 達 目 標

1. 在宅看護の対象者や在宅看護の役割と目的を理解できる。訪問時の留意点を説明できる
2. 在宅看護の制度やシステムを知り、対象の特性に応じた在宅看護活動の内容を理解できる
3. 在宅看護を取り巻く課題について説明できる
4. 地域包括ケアシステムを活用した退院支援・退院調整について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

| | | | |
|----|---------|-------|-------|
| 対応 | ○ (DP1) | (DP2) | (DP3) |
| DP | ◎ (DP4) | (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程 | 単 元 | 内 容 | 担当教員 |
|----|--------|--------------------|---|-------|
| 1 | 月 日 | 在宅看護の目的と看護の役割 | 授業ガイダンス 在宅看護の社会的背景、在宅看護の特徴 在宅看護における倫理と基本理念 | 馬場みちえ |
| 2 | 月 日 | 在宅看護の対象者の理解 | 在宅療養者の特徴、疾患からみた対象者の特徴、障害からみた対象者の特徴 | 馬場みちえ |
| 3 | 月 日 | 在宅看護の対象者の理解 | 在宅療養状態別にみた対象者の特徴 在宅看護における家族への支援 | 馬場みちえ |
| 4 | 月 日 | 在宅看護の制度 | 介護保険制度と訪問看護制度 | 馬場みちえ |
| 5 | 月 日 | 在宅看護の提供方法と関連職種との協働 | 訪問看護の内容と利用の流れ 多職種連携協働と統合 | 馬場みちえ |
| 6 | 月 日 | 在宅療養の移行支援 | 自律・自立支援における意思決定 退院支援のプロセスと退院調整 | 馬場みちえ |
| 7 | 月 日 | 在宅看護の制度と関連職種との協働 | 地域包括ケアシステムを支えるチーム医療とケアマネジメント リスクマネジメントと権利擁護、災害時の支援 | 馬場みちえ |
| 8 | 月 日 | 在宅医療の現状と課題 まとめ | 在宅医療の現状と課題 まとめ | 馬場みちえ |

| | |
|----------|--|
| 評 価 | 筆記試験 (80%)、課題レポート (20%) |
| 教科書 | 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院 |
| 参考図書等 | 1. ナーシンググラフィカ 在宅看護論「地域療養を支えるケア」メディカ出版、 2. 厚生労働省、各市町村のホームページ |
| 留意事項 | |
| オフィスアワー等 | 水曜日 (16時～18時) ・ 木曜日 (17時～18時) 研究室 |

| 授 業 科 目 名 | 授業形態 | 単位数 (時間数) | 配当年次 | 担 当 教 員 |
|-----------|------|-----------------|-------|---------|
| 在宅看護学援助論 | 演習 | 1 単位 (30 時間) | 2 年後期 | 馬場みちえ |

授 業 概 要

基礎看護学、地域看護学概論、在宅看護学概論の学修と関連させながら、自宅で療養生活を送る人とその家族に対する日常生活の基礎的援助技術（食事、排泄、排便、紙おむつ、入浴、移動等）や医療ケアの原理原則や技術について学修する。在宅で生活する人の援助については、対象の生活の場の把握、価値観、サポートの有無、家族の協力などが必要になる。健康課題や障害をもつ対象に住み慣れた生活の場で実施する生活援助は、対象の安全・安楽に配慮し創意工夫が必要となる。様々な場面を想定しながら在宅における基礎的援助技術や医療ケアについて学修する。

到 達 目 標

1. 在宅看護で求められる日常生活援助が理解できる
2. 在宅看護で求められる医療ケアの原則や技術が理解できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

| | | | |
|----|--|-----------------------------|-----------------------------|
| 対応 | <input type="radio"/> (DP1) | <input type="radio"/> (DP2) | <input type="radio"/> (DP3) |
| DP | <input checked="" type="radio"/> (DP4) | <input type="radio"/> (DP5) | <input type="radio"/> (DP6) |

| 回数 | 日程 | 単 元 | 内 容 | 担当教員 |
|----|--------|----------------------|--|-------|
| 1 | 月 日 | 在宅で暮らす対象の事例 | 在宅で暮らす高齢者と家族の看護（事例による） | 馬場みちえ |
| 2 | 月 日 | 在宅で暮らす対象の事例 | 在宅で暮らす高齢者と家族のアセスメント | 馬場みちえ |
| 3 | 月 日 | 在宅看護介入時期別の特徴と 関わり | 在宅看護介入時期の理解と介入 レスパイトケア | 馬場みちえ |
| 4 | 月 日 | 在宅看護技術 | 在宅看護活動を支えるコミュニケーションとその支援 呼吸に関する在宅看護技術（呼吸・循環アセスメント、在宅酸素療法、在宅人工呼吸器療法、呼吸 リハビリテーションと排痰ケア、感染管理） | 馬場みちえ |
| 5 | 月 日 | 在宅看護技術 | 食事（嚥下アセスメント、摂食嚥下リハビリ、在宅経管栄養法（胃瘻 P-TEG 等） 排泄（排泄アセスメント、排泄ケア（ウロ、コロストーマ、浣腸、排便、留置カテーテル） | 馬場みちえ |
| 6 | 月 日 | 在宅看護技術 | 清潔（口腔ケア、洗髪、手浴、足浴、陰部洗浄） 褥瘡（褥瘡アセスメント、褥瘡ケアと予防） | 馬場みちえ |
| 7 | 月 日 | 在宅看護技術 | 姿勢、移動・移乗（住環境アセスメントと環境整備、転倒転落アセスメントと自立支援を目指す福 祉用具の活用） | 馬場みちえ |
| 8 | 月 日 | 在宅看護における医療ケア | 在宅における薬物療法と管理 在宅経管栄養法（胃瘻 P-TEG 等）、在宅中心静脈栄養法）の管理と自立支援 | 馬場みちえ |
| 9 | 月 日 | 在宅看護における医療ケア | 在宅酸素療法（HOT）、在宅人工呼吸療法の管理と自立支援 | 馬場みちえ |
| 10 | 月 日 | 在宅看護における医療ケア | 在宅透析の管理と自立支援 在宅でのストマの管理と自立支援 | 馬場みちえ |
| 11 | 月 日 | 在宅看護における医療ケア | 在宅での褥瘡管理と自立支援 在宅緩和ケアにおける疼痛管理と自立支援 | 馬場みちえ |
| 12 | 月 日 | 感染管理と予防 | 在宅の感染管理と予防 | 馬場みちえ |
| 13 | 月 日 | 在宅におけるエンドオブケア | 死の捉え方とエンドオブライフケア | 馬場みちえ |
| 14 | 月 日 | 在宅におけるエンドオブケア | 家族への援助、グリーフケア | 馬場みちえ |
| 15 | 月 日 | まとめ | 授業のまとめ | 馬場みちえ |

| | |
|----------|--|
| 評 価 | 筆記試験（80%）、課題レポート（20%） |
| 教科書 | 系統看護学講座 「在宅看護論」医学書院 |
| 参考図書等 | 1. ナーシンググラフィカ 在宅看護論「地域療養を支えるケア」メディカ出版、 2. 「在宅看護技術」メヂカルフレンド社 3. 「基礎看護技術」メヂカルフレンド社 4. 「よくわかる在宅看護」学研 |
| 留意事項 | |
| オフィスアワー等 | 水曜日（16時～18時）・木曜日（17時～18時）研究室 |

| 授業科目名 | 授業形態 | 単位数 (時間数) | 配当年次 | 担当教員 |
|---------|------|---------------|------|-------|
| 在宅看護学演習 | 演習 | 1単位 (30時間) | 3年前期 | 馬場みちえ |

授 業 概 要

在宅看護は健康問題や障害を抱えながら在宅で生活している人々と家族が、その人らしく生活を送ることができるように支援をすることである。そのためには対象とする人々を身体的・精神的・社会的側面からとらえ、発生しやすい健康課題に向き合い、家族も含めてどのような健康な生活を望むのか相談しながら、資源を活用しあるいは多職種と協働しながら看護することが必要となる。事例を通してシミュレーションで訪問看護に必要な倫理的側面や問題解決能力を養う。また関係職種との連携・チームケアについて学修する。

到 達 目 標

1. 在宅看護を必要とする人々を身体的・精神的・社会的側面から理解できる
2. アセスメントを通して生活課題を見出し、在宅療養者と家族が自立できるような具体策を提示できる
3. 療養者や家族に対して倫理的配慮について説明できる
4. 多職種と連携する必要性について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む
 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

| | | | |
|----|---------|-------|-------|
| 対応 | ○ (DP1) | (DP2) | (DP3) |
| DP | ◎ (DP4) | (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程 | 単 元 | 内 容 | 担当教員 |
|----|--------|-----------------------------|--|-------|
| 1 | 月 日 | 訪問看護ステーションとは | 授業ガイダンス 訪問看護ステーションとは 訪問看護ステーションの経営・運営 | 馬場みちえ |
| 2 | 月 日 | 在宅看護の視点 | 訪問看護に必要なヘルスアセスメントと自立支援 | 馬場みちえ |
| 3 | 月 日 | 寝たきり高齢者の在宅看護1 | 寝たきりの高齢者の看護過程 (アセスメント 問題の明確化) | 馬場みちえ |
| 4 | 月 日 | 寝たきり高齢者の在宅看護2 | 寝たきりの高齢者の看護過程 (具体策) | 馬場みちえ |
| 5 | 月 日 | 難病で在宅療養する対象者の在宅看護 (呼吸不全) 3 | 自宅でHOTを行う対症への在宅看護 自立支援 | 馬場みちえ |
| 6 | 月 日 | 神経難病で在宅療養する対象者の在宅看護 (ALS) 1 | ALSの対象の看護過程 (アセスメント) | 馬場みちえ |
| 7 | 月 日 | 2 | ALSの対象の看護過程 (問題の明確化) | 馬場みちえ |
| 8 | 月 日 | 3 | ALSの対象の看護過程 (具体策) | 馬場みちえ |
| 9 | 月 日 | 4 | ALSの対象の看護過程 | 馬場みちえ |
| 10 | 月 日 | 5 | ALSの対象の看護過程 | 馬場みちえ |
| 11 | 月 日 | 小児で在宅療養する対象者の在宅看護 | 人工呼吸器装着の小児のアセスメント 家族への支援 | 馬場みちえ |
| 12 | 月 日 | 小児で在宅療養する対象者の在宅看護 | 中心静脈栄養法を受ける小児のアセスメント 発達への援助 | 馬場みちえ |
| 13 | 月 日 | がん患者への在宅看護1 | がん患者の在宅での看護過程 (アセスメント) | 馬場みちえ |
| 14 | 月 日 | がん患者への在宅看護2 | がん患者の在宅での看護過程 (具体策) | 馬場みちえ |
| 15 | 月 日 | 認知症がある対象者の在宅看護 | 事例を用いて在宅での看護を考える | 馬場みちえ |

臨床実践中心型カリキュラム
シミュレーションで学ぶ

| | |
|----------|--|
| 評価 | 筆記試験（80％）、課題レポート（20％） |
| 教科書 | 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院 |
| 参考図書等 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 2. 在宅看護技術 メヂカルフレンド社 3. 基礎看護技術 メヂカルフレンド社 4. よくわかる在宅看護 学研 5. 訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル 第3版 日本看護協会出版会 |
| 留意事項 | |
| オフィスアワー等 | 水曜日（16時～18時）・木曜日（17時～18時）研究室 |

| 授 業 科 目 名 | 授業形態 | 単位数 (時間数) | 配当年次 | 担 当 教 員 |
|-----------|------|-----------------|-------|---------|
| 在宅看護学実習 | 実習 | 2 単位 (45 時間) | 3 年後期 | 馬場みちえ |

授 業 概 要

在宅看護は、対象者の生活の場を中心に展開されることから、個々の療養者および家族が有する生活・健康への価値観や主体性を尊重し、自立支援や自己決定という視点を持ちながら、健康を維持・増進することが重要である。この実習では、訪問看護ステーションにおける実習を通して健康問題や課題を抱えながら在宅生活をおくる療養者の生活の場を知り、サポートの有無、家族との関係性の把握を行う。対象者の安全・安楽への配慮や意思決定の支援、倫理的配慮の実際を学ぶとともに、健康に寄与する看護の役割や課題について考察する。さらに、在宅看護に関連する保健医療福祉活動の実際について、多職種連携/協働によるチームアプローチの視点から学ぶ。在宅看護における専門職連携、協働における訪問看護師の役割を明確にする。

到 達 目 標

1. 在宅療養者および家族との援助的人間関係の構築方法が理解できる。
2. 在宅療養者および家族について、身体的・精神的・社会的、並びに家族看護の視点でアセスメントし看護問題を明らかにできる。
3. 社会資源を活用し、在宅療養者および家族に応じた QOL の向上を目指した看護のあり方についての方法が理解できる。
4. 在宅療養者および家族に対して、実践した看護の評価ができる。
5. 訪問事例を通して、社会資源の活用状況と継続看護の必要性について理解できる。
6. 在宅看護における専門職連携協働が理解できる。
7. 専門職としての倫理観に基づく基本的態度で行動できる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

- 事前学修
1. 実習する地域について調べておく。
 2. 専門職連携協働の場合に関連する職種に関して学修しておく。
 3. 健康管理室でのインタビューについてロールプレイで学修しておく。
- 事後学修
1. 日々のカンファレンスの学びを明らかにする。
 2. 実習期間（2週間）を通して看護者としての課題を明らかにする。

| | | | |
|----|---------|---------|-------|
| 対応 | (DP1) | (DP2) | (DP3) |
| DP | ◎ (DP4) | ○ (DP5) | (DP6) |

授 業 の 進 め 方

1. 実習期間：2 週間（2024 年 令和 6 年 後期）
2. 実習場所：「あおぞらの里和白訪問看護ステーション」「あおぞらの里古賀訪問看護ステーション」「なごみ訪問看護サービス」「訪問看護ステーションえんまん」
3. 実習内容
 - 1) 実習初日は、オリエンテーションを受け、事業所の概要（地域性を含む）と特色、運営管理（経営戦略や情報管理を含む）を理解する
 - 2) 訪問時は、これまでの学びを想起し、マナーを守り臨地に出向く
 - 3) 看護職・介護職・リハビリ専門職・医師等、在宅ケアを担う看護職とそれ以外の専門職の活動に同行して、訪問看護師の指導のもと許可を得て、訪問看護師の見守りまたは、一緒に看護技術を実践（参加型）する
 - 4) 地域で活動する看護職が担う役割を考察すると同時に、看護師が連携する他職種の役割を理解し、連携方法やそれぞれが専門とする領域、役割の違いを理解し考察する
 - 5) 訪問事例を通して、在宅療養者を介護する家族看護の視点で、家族を理解し介護を継続できるように具体的な援助内容を考える
 - 6) 必要な社会資源を活用し、在宅での看護の限界もアセスメントする

| 週数/日数 | 1 日 目 | 2 日 目 | 3 日 目 | 4 日 目 | 5 日 目 |
|-------|----------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 1 週 目 | 事業所の概要オリエンテーション/情報収集 | 情報収集/訪問看護に同行 | 情報収集/訪問看護に同行 | 学内学修 | 情報収集/訪問看護に同行 |
| 2 週 目 | 6 日 目 | 7 日 目 | 8 日 目 | 9 日 目 | 10 日 目 |
| | 情報収集/訪問看護に同行 | 情報収集/訪問看護に同行 | 情報収集/訪問看護に同行 | 情報収集/訪問看護に同行 | 学内学修/まとめ |

* 施設内看護と在宅看護の違いを理解し、在宅看護に必要な看護の視点や看護技術を学ぶ

| | |
|----------|---|
| 評価 | 評価表に基づき評価する |
| 教科書 | 関連科目のテキストや配布資料、ワーク資料等 |
| 参考図書等 | |
| 留意事項 | <p>(事前) ①自分が実習する施設の概要、関係機関と関連職種の機能と政策・法律・制度を調べて実習に活用できるようにノートにまとめる。</p> <p>②在宅看護学概論・在宅看護援助論Ⅰ・在宅看護援助論Ⅱ・家族看護論の講義内容の復習を行う。</p> <p>(事後) ①毎日の実習のまとめを行い、次の学修課題を明らかにする。</p> <p>②訪問時の自己の態度について振り返りを行う。</p> <p>(各自準備する物)：聴診器、秒針付き腕時計、筆記用具、タオル、濡れた時の着替え、(ポロシャツ、ジャージ、靴)靴下の履き替え</p> |
| オフィスアワー等 | 水曜日(16時～18時)・木曜日(17時～18時) 研究室 |

実務経験

看護師として医療機関等に 30 年勤務

| 授 業 科 目 名 | 授業形態 | 単位数 (時間数) | 配当年次 | 担 当 教 員 |
|-----------|------|-----------------|-------|---------|
| 成人看護学概論 | 講義 | 1 単位 (15 時間) | 2 年前期 | 神島滋子 |

| 授 業 概 要 |
|--|
| 成人期は人生のライフサイクルの中で身体的、精神的に安定し、社会的には大きな役割や責任を担う時期である。青年期から向老期まで発達段階を経る中で、ライフイベントも多く、生活を営み、仕事を持ち働き、社会的責任も大きくなり、成人期特有の健康問題も生じる。成人期にある対象の健康レベルに応じた主要な理論や概念を学ぶと共に、対象をとりまく環境としての生活と健康を守り育むシステムの保健・医療・福祉の施策や背景、グローバル社会における健康問題の違いについて学修する。 |

| 到 達 目 標 |
|--|
| 1. 成人期のライフイベントが生活に及ぼす影響について説明できる 2. 成人期の特徴と特有の健康問題について説明できる 3. 成人期の健康レベルに応じた看護に必要な概念や理論について説明できる |

| 事 前 学 修 ・ 事 後 学 修 |
|--|
| 事前学修：各単元に関する教科書の該当部分を予習する 事後学修：単元ごとに疑問点などを明らかにし、自ら学修し解決する |

| | | | |
|----|---------|-------|---------|
| 対応 | ○ (DP1) | (DP2) | ◎ (DP3) |
| DP | (DP4) | (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程 | 単 元 | 内 容 | 担当教員 |
|----|--------|-----------------------|--|------|
| 1 | 月 日 | 成人看護学とは | コースガイダンス、成人看護学の概要、成人期にある人とは？（ライフサイクルから見た成人期とライフイベント） | 神島滋子 |
| 2 | 月 日 | 成人期の特徴 | 成人期にある人とは？（成人期の身体的、精神的、社会的特徴） | 神島滋子 |
| 3 | 月 日 | 成人期の健康障害 | 成人期の生活を脅かす健康問題と健康障害（健康レベル、健康保健、成人各期の健康問題） | 神島滋子 |
| 4 | 月 日 | 健康障害を持つ人の経過と特徴 | 疾病の急性期、回復期（リハビリテーション期）、維持期、終末期の特徴 | 神島滋子 |
| 5 | 月 日 | 成人期にある人へのケアのための概念・理論① | 危機理論、障害受容、セルフケア理論、ストレスとコーピング | 神島滋子 |
| 6 | 月 日 | 成人期にある人へのケアのための概念・理論② | アンドラゴジー、アドヒアランス、トランスセオリアルティカルモデル、病みの軌跡、自己効力感 | 神島滋子 |
| 7 | 月 日 | グローバル社会における健康問題の違い | 地域における健康問題の違い | 神島滋子 |
| 8 | 月 日 | まとめ | 授業の振り返り | 神島滋子 |

| | |
|----------|-----------------------------------|
| 評 価 | ミニテストなどの提出（20%）、筆記試験（80%） |
| 教科書 | ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版 |
| 参考図書等 | |
| 留意事項 | |
| オフィスアワー等 | 月曜日（17時～18時）・水曜日（16時～18時）研究室 |
| 必修・選択 | 必修 |
| 実務経験 | 看護師として医療機関等に10年勤務 |

| 授 業 科 目 名 | 授業形態 | 単位数 (時間数) | 配当年次 | 担 当 教 員 |
|-----------|------|-----------------|-------|---------|
| 老年看護学概論 | 講義 | 1 単位 (15 時間) | 2 年前期 | 勝野とわ子 |

授 業 概 要

高齢者観・倫理観を深化させるとともに、加齢に関連する諸概念と理論を学ぶことで、高齢者を身体的・心理的・社会的側面から統合的に理解し、高齢者の健康レベルに合わせた質の高い看護を提供するための基礎知識を修得する。また、老年看護学の対象者の成長と発達過程、人口統計および社会構造の変化、災害時のニーズ、高齢者への保健・医療・福祉サービスの現状と課題を捉え、老年看護実践における専門的な看護者の役割と機能を学修する。

到 達 目 標

1. 高齢者観や倫理観を振り返り、その重要性を理解する
2. 高齢者看護において、応用可能な理論や概念枠組みについて理解する
3. 日本の人口統計や社会構造の変化を説明できる
4. 高齢者を支える諸制度や資源を理解する
5. 高齢者の死生観を理解し、高齢者看護への応用を考えることができる
6. 高齢者の災害時ニーズについて理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む

事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする

| | | | |
|----|-----------------------------|-----------------------------|--|
| 対応 | <input type="radio"/> (DP1) | <input type="radio"/> (DP2) | <input checked="" type="radio"/> (DP3) |
| DP | <input type="radio"/> (DP4) | <input type="radio"/> (DP5) | <input type="radio"/> (DP6) |

| 回数 | 日程 | 単 元 | 内 容 | 担当教員 |
|----|--------|---------------------------------|---|-------|
| 1 | 月 日 | 高齢者とは？ | オリエンテーション 高齢者をどう見るか、高齢者の定義、 高齢者看護の定義と目的 | 勝野とわ子 |
| 2 | 月 日 | 成長と発達過程からみた 高齢者看護 | 成長・発達過程からみた高齢者の特徴と課題 | 勝野とわ子 |
| 3 | 月 日 | 老化現象の理論・概念枠組 み | 老化現象を説明する生理的・心理的・社会的理論の概要 | 勝野とわ子 |
| 4 | 月 日 | 高齢者への心理的支援 | 高齢者を対象とした心理的ケア レミニッセンスの意義、介入方法 | 勝野とわ子 |
| 5 | 月 日 | 高齢者と死生観 | 高齢者の死生観、エンドオブライフケア | 勝野とわ子 |
| 6 | 月 日 | 人口統計と社会構造の変 化 災害時の高齢者のニーズ | 日本の高齢者を取り巻く人口統計・健康指標、災害時の高齢者のニーズ（近年の災害か ら） | 勝野とわ子 |
| 7 | 月 日 | 高齢者看護と倫理 | 倫理原則、高齢者をめぐる倫理問題 | 勝野とわ子 |
| 8 | 月 日 | 高齢者を支える諸制度と 将来展望 | 高齢者を支える諸制度と将来、認定看護師や専門看護師について | 勝野とわ子 |

| | |
|----------|------------------------------------|
| 評 価 | 課題レポート（80%）、授業中に提示される課題レポート（20%） |
| 教科書 | ナーシンググラフィカ 老年看護学 ①高齢者の健康と障害 メディカ出版 |
| 参考図書等 | |
| 留意事項 | |
| オフィスアワー等 | 火曜日（17時～18時）・水曜日（16時～18時）研究室 |
| 必修・選択 | 必修 |
| 実務経験 | 看護婦（師）として医療機関等に4年勤務 |

| 授 業 科 目 名 | 授業形態 | 単位数 (時間数) | 配当年次 | 担 当 教 員 |
|-----------|------|-----------------|-------|---------|
| 認知症看護論 | 講義 | 1 単位 (15 時間) | 3 年前期 | 勝野とわ子 |

授 業 概 要

認知症者および介護家族へのケアおよび保健医療福祉サービスについての今日的課題について理解を深め、より良い認知症ケアおよび認知症者を支える共生社会構築への姿勢を修得する。今日的課題として高齢社会のなか 2025 年には認知症患者が 700 万人を超えるとされ、それを支える医療や地域、施策などの知識が必要になる。認知症の理解、偏見、人権尊重、個性性を尊重したケア、介護家族へのケアの在り方などについて理解を深め解決策を探究する基礎能力を修得する。さらに、認知症者を取り巻く多職種連携、地域包括ケアシステムと共生社会についても学修する。

到 達 目 標

1. 認知症者を取り巻く今日的課題について理解する
2. 認知症予防のケアについて説明できる
3. 認知症者の心理とニードについて理解し説明できる
4. 認知症者のアセスメントについて理解し説明できる
5. パーソンセンタードケアについて理解し説明できる
6. 生活の質向上を目指した認知症者へのケア方法について理解し説明できる
7. 認知症者の家族介護者のケアについて理解し説明できる
8. 認知症者と支援する地域包括ケアシステムについて理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：単元の内容について教科書、参考図書、資料から予習し、事前課題に取り組む
 事後学修：授業の内容について復習する

| | | | |
|----|---------|---------|-------|
| 対応 | ○ (DP1) | ◎ (DP2) | (DP3) |
| DP | (DP4) | (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程 | 単 元 | 内 容 | 担当教員 |
|----|--------|-----------------------------|---|-------|
| 1 | 月 日 | オリエンテーション 認知症者を取り巻く今日的課題 | 最新のデータおよび研究に基づいた認知症者を取り巻く今日的課題（患者数、認知症の種類、診断・治療、など） | 勝野とわ子 |
| 2 | 月 日 | 認知症予防のケア | 生活習慣などのリスクファクター、運動、音楽、知的活動などからの認知症予防に効果的なケアアプローチ | 勝野とわ子 |
| 3 | 月 日 | 認知症者の心理とニード | 認知症者の心理の理解、認知症者の多様なニードに対するケア方法 | 勝野とわ子 |
| 4 | 月 日 | 認知症者のアセスメント | 認知症者とのコミュニケーション方法、身体的アセスメント、心理的アセスメント、社会経済的アセスメント、認知機能のアセスメント | 勝野とわ子 |
| 5 | 月 日 | 認知症ケアの実際 1 | パーソン・センタード・ケアの概要、人権を尊重するケアの方法 | 勝野とわ子 |
| 6 | 月 日 | 認知症ケアの実際 2 | レクリエーション活動（運動、音楽、美術、芸術など）、タクテイルケア レミニッセンス / 認知症者を対象とした活動案の作成 | 勝野とわ子 |
| 7 | 月 日 | 認知症者を介護する家族ケア | 介護家族の背景、健康状態、介護者のアセスメントとケアニード、ケア方法 | 勝野とわ子 |
| 8 | 月 日 | 認知症者と地域包括ケアシステム | 認知症者を取り巻く多職種連携、地域包括ケアシステムと共生社会 | 勝野とわ子 |

| | |
|----------|---|
| 評 価 | 課題レポート（100%） |
| 教科書 | 1. 看護師のための認知症のある患者さんのアセスメントとケア、六角僚子他、ナツメ社 2. ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版 3. ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版 4. ナーシンググラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント メディカ出版 |
| 参考図書等 | 1. トム・キットウッド著 認知症のパーソン・センタード・ケア、クリエイツかもがわ 2. ドーン・ブルッカー著 V I P S で進めるパーソン・センタード・ケア、クリエイツかもがわ |
| 留意事項 | |
| オフィスアワー等 | 火曜日（17時～18時）・水曜日（16時～18時）研究室 |
| 必修・選択 | 必修 |
| 実務経験 | 看護婦（師）として医療機関等に4年勤務 |

| 授 業 科 目 名 | 授業形態 | 単位数 (時間数) | 配当年次 | 担 当 教 員 |
|-----------|------|---------------|------|---------|
| 小児看護学概論 | 講義 | 2単位 (30時間) | 2年前期 | 宮里邦子 |

| 授 業 概 要 |
|---|
| 家族看護論の学修と関連させながら小児と家族について、社会状況、施策、小児関連統計、子どもの権利に関する条約等から理解する。また、小児の成長発達の特徴、および発達段階に応じた生活と援助の概要、小児看護の対象特性、実践の場における倫理的側面をふまえたケアや課題について学修する。現代社会における子どもの健康問題と健康管理の実際を理解する。さらに地域母子保健活動と他機関との連携・協働のあり方を学修する。 |

| 到 達 目 標 |
|--|
| 1. 小児と家族を取り巻く状況や小児関連統計からみた健康問題について説明できる |
| 2. 小児の成長発達の特徴、および各発達段階の生活と健康問題について説明できる |
| 3. 小児の権利、および倫理原則をふまえたケアについて述べるができる |
| 4. 地域母子保健と他機関との連携・協働、およびソーシャルサポートについて述べるができる |

| 事 前 学 修 ・ 事 後 学 修 |
|--------------------------------|
| 事前学修：該当テーマについて自主的に調べて授業に臨む |
| 事後学修：当日の該当テーマに沿って講義から復習・まとめをする |

| | | | |
|----|---------|-------|---------|
| 対応 | ○ (DP1) | (DP2) | ◎ (DP3) |
| DP | (DP4) | (DP5) | (DP6) |

| 回数 | 日程 | 単 元 | 内 容 | 担当教員 |
|----|--------|--------------------------|---|------|
| 1 | 月 日 | 小児看護の目的・役割 小児と家族の健康問題 | 授業ガイダンス 小児看護の目的、小児と家族を取り巻く状況、小児保健統計からみた健康問題 | 宮里邦子 |
| 2 | 月 日 | 小児の生活を支える成長・発達 | 成長・発達の原理原則、態的成長 機能的発達、発達の評価、発達に影響する要因 | 宮里邦子 |
| 3 | 月 日 | 新生児・乳児の生活と健康問題 | 新生児・乳児の生活と健康問題への援助（食事、排泄、睡眠、清潔、衣服の着脱） | 宮里邦子 |
| 4 | 月 日 | 幼児の生活と健康問題 | 幼児の生活と健康問題への援助（食事、排泄、睡眠、清潔、衣服の着脱） 生活習慣獲得のための援助 | 宮里邦子 |
| 5 | 月 日 | 学童・思春期の生活と健康問題 | 学童・思春期の子どもの生活と健康問題への援助 | 宮里邦子 |
| 6 | 月 日 | 小児の権利擁護 | 小児の人権、児童福祉法、児童憲章、子どもの権利条約 | 宮里邦子 |
| 7 | 月 日 | 小児をめぐる現状と問題 | 虐待、ネグレクト、不登校、いじめ | 宮里邦子 |
| 8 | 月 日 | 国際的視点からみた小児の健康問題 まとめ | 諸外国における小児の生活と健康問題 | 宮里邦子 |
| 9 | 月 日 | 地域母子保健からみた健康課題 | 地域母子保健からみた小児期の健康課題（母子保健法） | 宮里邦子 |
| 10 | 月 日 | 小児の健康課題に対する行政 | 小児の健康課題に対する国・都道府県・市町村の取り組み、医療費支援、予防接種 | 宮里邦子 |
| 11 | 月 日 | 小児の健康と学校保健 | 学童期の健康管理に関して学校保健の役割・内容 | 宮里邦子 |
| 12 | 月 日 | 子どもと貧困 | 子どもの貧困と健康 | 宮里邦子 |
| 13 | 月 日 | 発達障害の子どもと支援 | 障がいの理解、発達障害の子どもへの対応・支援 | 宮里邦子 |
| 14 | 月 日 | 医療ケアが必要な子どもの生活サポート1 | 健康障害のある子どものライフサイクルに応じた支援 | 宮里邦子 |
| 15 | 月 日 | 医療ケアが必要な子どもの生活サポート2 | 健康障害のある子どもの就学と学校生活に対応するサポートの実際 | 宮里邦子 |

| | |
|----------|--|
| 評 価 | 筆記試験（80%）、課題レポート（20%） |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児看護総論 小児看護学① 医学書院 |
| 参考図書等 | |
| 留意事項 | |
| オフィスアワー等 | 水曜日（16時～18時）・木曜日（17時～18時）研究室 |
| 必修・選択 | 必修 |

実務経験

看護婦（師）として医療機関等に4年勤務